

同好会活動紹介

写真同好会



写真同好会会長の穴澤章さんに、同好会の活動とご自身の写真の趣味についてお聞きしました。

←穴澤会長



コロナ禍を経て

写真同好会は2005年に発足した、17年の歴史のある同好会です。一時は30名を超える会員がいましたが、現在は女性5名、男性16名の合計21名。

穴澤さんにコロナ禍前の活動を振り返って頂きました。「年4回の撮影会と年2会の発表会を開き、活発に活動していました。撮影会はチューリップの季節に昭和記念公園、紅葉の時期に横浜の三溪園、旧岩崎邸庭園、佐原、潮来など、色々な



三溪園での撮影会



旧岩崎邸庭園での撮影会

ところに電車の日帰り旅で撮影会を楽しんできました。撮影の後に居酒屋やファミレスで、撮影談議に花を咲かせて懇親を深めるのも楽しかったです。」

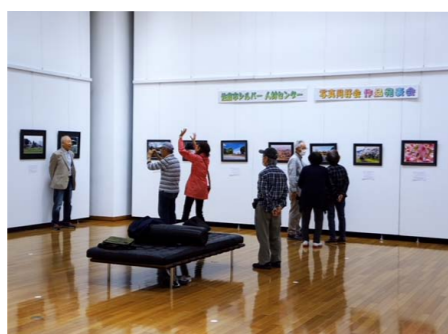
コロナが始まった2020年はほぼ

コロナ禍での空白期間を過ぎて、いよいよ写真同好会の活動が本格化して来ました。来月、11月22日から27日まで、佐倉市立美術館で作品発表会が開かれます。

活動停止を強いられました。2021年になってオンラインでの発表会を3回開催、11月になってやっと、成田山公園で撮影会、市立美術館で作品発表会を開催できました。

11月の第36回作品発表会

今年になって会の活動は一段と本来の姿に近づきつつあります。撮影会は、5月に佐倉城址公園とその近隣で開催しました。撮影会の後の懇親会は、残念ながら今しばらくは自粛です。作品発表会は5月に開催し、



今年5月での作品発表会

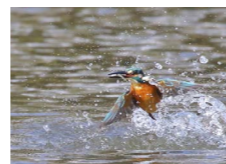


作品発表会での集合写真

次は11月22日から第36回作品発表会を市立美術館で開催します。「いよいよ作品数も作品のバラエティも、本来の作品発表会のレベルに戻ることを期待しています。皆さん、ぜひ観に来て下さい。」と穴澤さん。

穴澤さんと写真

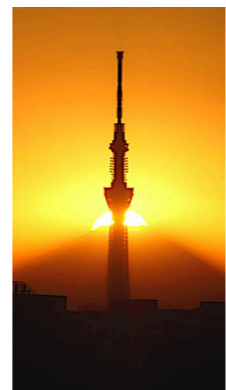
穴澤さんご自身の写真の趣味についてもお聞きしました。写真を始めたのは、会社を定年退職した10年前、一眼レフカメラを買ってからのこと。最近こだわっている写真をお聞きすると、「ここ1年ほどカワセミを撮っていました。直近で凝っているのは白鳥の流し撮りです。」と、それぞれ力強く羽ばたく野鳥の写真を見せて頂きました。



カワセミのダイビング



白鳥の流し撮り



スカイツリーとダイヤモンド富士

これまでの最高の傑作写真も見せて頂きました。2017年に読売写真大賞の第2席を受賞した「スカイツリーとダイヤモンド富士」です。撮影当日の強風と砂塵の中、かすんで見えるダイヤモンド富士にスカイツリーが重なった、不思議な雰囲気印象的な写真でした。

最後に穴澤さんから、写真同好会への勧誘メッセージです。「若い人にもぜひ加入して頂きたい。気軽にハイキングに行く気分で撮影会を楽しめますよ。」穴澤さん、ありがとうございました。

記事担当/広報委員 小野寺 弘孝

ハローシニア佐倉

(公社)佐倉市シルバー人材センター



(公社)佐倉市シルバー人材センター ホームページ



輝き始めた
シルボンヌさくら

コロナの文字の無い時代、企画委員会の一つの取り組みとして、他のシルバー人材センター(SJC)を視察し、当SJCでの新しい仕様式やそのための組織作りを検討していました。柏市SJCに、女性会員の活動を支援する「女性委員会」があることに注目し、当センターへの導入を検討してきました。

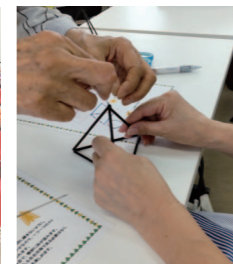
コロナ時代になった令和2年10月、企画委員会/サポート事業分科会の中に「女性部会」として発足、同12月に3名の女性委員が任命され、翌年の総会において、不在であった女性理事が誕生し、本格的に女性部会の活動を開始しました。

これまでの主な活動

- ・交流会：3回
 - ・講習会：第1回 ヒンメリ講習会・茶話会 昨年9月
 - ・第2回 ブローチ講習会・茶話会 本年9月
 - ・ひなまつりイベント 本年3月開催
 - ・ケーブルテレビ取材・放映
 - ・シルボンヌさくら(季刊号)の発行・定期便にて配付
- 最新号は夏号(8月)



ひな祭りイベント



ヒンメリ講習会

女性のための入会説明会を創設しました

女性会員募集中!!

私たちと一緒ににはたしませんか!?

日時 令和4年10月24日(月)
9:30~11:30

場所 佐倉市錦木町198-2
ワークプラザ 2F

生き生きと生涯現役でいたい!
健康寿命を延ばしたい!
お小遣いが欲しい!
仲間づくりをしたい!
社会参加して生活のリズムを!...etc

10月は、全国のシルバー人材センター事業啓発促進月間です。

10月と11月に、会員候補者をご紹介で5ポイント、更にその方が入会で5ポイント進呈のほかに、以下の企画があります。

1. 女性向けの入会説明会 10月24日(月)
2. 産業大博覧会への出展 11月12日・13日
会場 佐倉草ぶえの丘
3. ポスター掲示とチラシの配布、センターHPのリニューアル等の広報PR活動

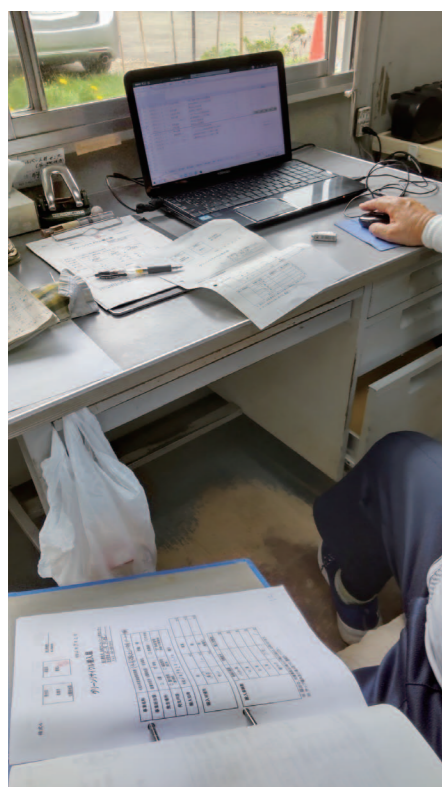
問い合わせ先 (公社)佐倉市シルバー人材センター 043-486-5482

SDGs に貢献！ 小篠塚で植物資源リサイクル

佐倉市小篠塚チップ処理場の構内管理に活躍されている齋藤四郎さんと米本和幸さん取材しました。平日の交代勤務で其々3日間を1人で勤務する2人の仕事場は、佐倉ICから1kmほど西に位置する小篠塚地区の森の中に在ります。

取材担当/徳野 廣一グループリーダー

第一の仕事は、搬入車両の受付・管理です。佐倉市から樹木の伐採、剪定等を請負った専門企業が佐倉市の搬入届出書を持参して、作業で生じた木の幹や枝、落葉、刈り取った雑草をここに搬入する時に、この書類を現場で確認し、保管・管理することです。これを所持しない車両は、処理場へ入構できません。搬入記録はパソコンで毎日作成し、1ヶ月分をまとめて佐倉市に報告します。以前は手書き方式であったものを、齋藤さんが現在の方式に改善されました。



搬入届出書を確認し、搬入データをPCに入力して搬入記録を作成。

次に、草・落葉類と処理されたチップの山の内部温度測定です。これ等の山の内部では発酵が進み、温度は70℃～80℃までになります。これを定期的に測定し、90℃になると佐倉市の担当課に連絡します。過去に火災が発生したこともあり、構内は禁煙・火気厳禁を徹底します。

場内のごみ除去も重要な仕事です。堆肥にするチップにペットボトルなどが混入しないように、チップ処理する前に敷地内を定期的に巡回して、見つけると除去します。

取材の日には、山積みの草・わら類を大型チップ処理機に投入して細かく粉碎する作業が行われていました。専用の大型ショベルカーで発酵の進んだ草・わら類を掴んでチップ処理機に投入するときには、白い蒸気と発酵臭が漂います。連続して粉砕片を吐き出す処理機の前には、短時間で粉砕片の山が出来ます。こうして処理したものは、提携農家に運んで堆肥にするとのことでした。



右側のショベルカーで草・わら類を掴み、左側のチップ処理機の右端の投入口に投入。処理機の左側から粉砕片を連続して排出。

職場紹介 佐倉市小篠塚チップ処理場



左 齋藤 四郎さん 右：米本 和幸さん (管理室にて)

木の幹は二段階処理です。まずは、ショベルカーのアーム先の部品を幹粉碎用アタッチメントに取り替えて、これで幹をバリバリと握りつぶして小さな木片にします。



木の幹は、ショベルカーの先端で握りつぶして小さな木片にしてから、チップ化処理。

これをチップ処理機に投入してチップ化します。枝葉や幹のチップは、当処分場や市民公園の緑地帯に撒いて雑草の繁茂を抑制します。チップ片を公園の遊歩道に撒くと、体に優しいクッション材になります。時間が経つと、チップ片は自然に分解されて姿を消していきます。

齋藤さん、米本さん、野鳥の啼き声がかつて響き渡り、場内の奥にある静かな池に住み着いているという美しいオシドリ、サギ、鴨たちと一緒に、SDGsの時代に相応しい資源リサイクルの仕事に活躍してください。

2022年度上期 班長会議レポート

白井・千代田地区

開催日時 2022年9月16日(金)
午後5時30分～午後7時00分
場 所 白井公民館 2階集会室
出席者 班長15名、SSJC三役2名、地区役員3名
合計20名
班の構成 全16班(内2班は休止)

開会宣言の後、安全標語の唱和に続いて地区長の挨拶と報告、副会長の挨拶、事務局からの報告、班長の自己紹介と提言へと議事は進みます。会議の雰囲気は、活発な意見交換や提言がありながらも常に和やかで、最後には全員で「ご安全に！」と唱和して閉会しました。

この会議における有意義な提案や意見交換の中から、印象に残った話題を紹介します。

◆その1

定期便を手渡しする方法は、今の時代には合わないのではとの意見です。スマホの普及とコロナ禍の影響で広がった Web会議をはじめとする情報通信技術の活用意識が、シルバー世代の中にも浸透してきた証でしょう。その一方で、定期便を届けた時、久しぶりに会った会員が車椅子を利用する状況に変わっていた。会わなければ分からなかったとの話です。双方に納得できる点があり、簡単には結論を出せませんでした。

◆その2

班内の会員同士の繋がりを深めようにも個人情報保護の壁に阻まれて、コミュニケーションを取るのが難しいとの指摘です。会員名簿の公開が難しくなった今の時代の悩みです。コロナ禍でボランティア活動等も中止になり、班内の会員同士が会う機会も減りました。

◆その3

ホームページの活用で時宜を得た情報提供を求める声がある一方で、Smile to Smileへの登録が進まない事態とのギャップです。これを埋めるには時間がかかりそうです。当センターと会員の橋渡しの要である班長のみなさん、これからも宜しくお願いします。

取材担当/徳野 廣一グループリーダー



班長会議レポート

佐倉・和田地区

開催日時 2022年9月22日(木)
午後2時00分～午後3時30分
場 所 ワークプラザ2階会議室
出席者 班長8名、SSJC三役3名、地区役員3名
合計14名
班の構成 全15班

会員の高齢化と班員の減少および新会員の未入会

- ・活動のため2階へ上がるのが困難になった… 1階の部屋へ会場の変更
- ・就業報告書のデジタル報告へ (実例:訪問介護はカナエルタッチで)
- ・高齢会員へ軽易な就業の開拓と紹介により退会者を減らす
- ・同好会活動の更なる普及により健康寿命の延長へ
- ・SJC事業活動啓発促進への取り組み(特に10月・11月)
- ・会員候補者の推薦(期間限定特典)
- ・女性のための入会説明会
- ・産業大博覧会への出展
- ・広報活動強化…ポスターチラシ配布・掲示、センターHPのリニューアル、広告の見直し



定期便配付

- ・独居者の安否確認も必要
- ・会員が点在・飛び地問題や交通渋滞への安全確保
- ・隣接班にて話し合い、やむを得ない場合は郵送
- ・坂道が多く定期便配付にバイクや車が必要
- ・センターのホームページから情報を得ることの必要性を再認識 *緊急時はSNSで発信(約800名)

取材担当/広報委員長 岩淵 功

今回は「エージシュート」! 互助会だより

2022年9月13日(火)、「第72回佐倉シニアゴルフ同好会コンペ」が、新型コロナウイルス感染予防及び拡大防止策を行った上、多古カントリークラブ(パー72)において開催され41名の会員が参加しました。最高年齢92歳の鈴木節夫さんが、グロス94、HP26、ネット68、4アンダーの見事な成績で優勝に輝きました。おめでとうございます。途中まで「エージシュート(自分の年齢と同じ、もしくはそれ以下のスコアで18ホールを回ること)」達成かと、コースの支配人さんが見守っていたそうです。佐倉シニアゴルフ同好会(会員互助会)より